

授業概要

私たちの生きる社会——世の中——がどう成り立っているか、どんな仕組みか、社会科学を学ぶことは、財をおさめる「理財」や、世を治め民を救う「経世済民」（経済の語源のひとつ）を学ぶことである。高度に発達した現代では、日常生活のすべてを自分自身だけでまかなう自給自足は極めて難しく、私たちの日々の生活は財・サービスを生産・取引・消費する社会的分業で成り立っている。財・サービスを買いたい人と売りたい人はどう出会って、何をもって取引し、おのれのほど満足するだろうか。

この科目では、「経済学は社会科学の女王」と呼ばれるような経済学の「伊呂波の伊」を学修し、大学 4 年間に社会科学を学ぶ第一歩となるよう講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（この科目で学ぶこと、授業の基本的な流れ、履修するうえでのルール説明）
第 2 回	（テキスト序章）経済学を学ぶ前に
第 3 回	（テキスト第 1 章）需要と供給の決まり方(前)
第 4 回	（テキスト第 1 章）需要と供給の決まり方(後)
第 5 回	（テキスト第 2 章）市場メカニズム(前)
第 6 回	（テキスト第 2 章）市場メカニズム(後)
第 7 回	（テキスト第 3 章）なぜ政府が必要なのか(前)
第 8 回	（テキスト第 3 章）なぜ政府が必要なのか(後)
第 9 回	中間試験
第 10 回	（テキスト第 4 章）経済全体の動きをつかむ(前)
第 11 回	（テキスト第 4 章）経済全体の動きをつかむ(後)
第 12 回	（テキスト第 5 章）お金の回り方を探る(前)
第 13 回	（テキスト第 5 章）お金の回り方を探る(後)
第 14 回	（テキスト第 6 章）税金と財政のあり方を考える(前)
第 15 回	（テキスト第 6 章）税金と財政のあり方を考える(後)
第 16 回	期末試験

到達目標

経済経営学部生として大学 4 年間の学修の最も根幹を成す経済学の基本を学ぶことで、広い範囲でその基本的な知識を活かすことができる。なお、人間学部生にも同様の到達目標である。

履修上の注意

- (1) ふだんから経済に関わるニュースに関心を持つ
- (2) 授業の基本的な流れは、①小テストを受け、②講義を聴き、自ら必要に応じてメモをとる
- (3) 第 3 回～第 8 回・第 10 回～第 15 回は授業冒頭に前回の授業内容を確認する小テストを実施する
- (4) 第 1 回にこの科目の方針などを詳細に説明するので、必ず参加されたい
（ただし、第 1 回参加を履修上の条件としない）
- (5) 経済経営学部学生には必修科目である（人間学部生には、履修した時点で「この科目が経済経営学部生には必修科目である」ことに事前に了解したものとみなす）

予習・復習

- ・予習：テキストの該当部分を読み通しておく（30 分～40 分）
- ・復習：印刷で配付された講義資料（レジュメ）に書き込んだメモを参考にしながら授業をふりかえり、次回的小テストに備えて学習した内容を見返す（40 分～50 分）

評価方法

①中間試験の得点率×0.32+②期末試験の得点率×0.32+③小テスト合計の得点率×0.36 の合計 100% で成績評価する。成績評価には、出席ポイント（≒小テスト受験）10.0pt 以上が必要条件である。評価方法の詳細は、第 1 回に説明する。

テキスト

- ・教科書名：『高校生のための経済学入門』（ちくま新書 336）
- ・著者名：小塩隆士
- ・出版社名：筑摩書房
- ・出版年（ISBN）：2002 年（ISBN:978-4-480-05936-9）